

インフラDX推進の取組状況について

1. インフラDX推進の基本スタンス
2. 令和7年度 取組成果
3. 令和8年度 取組方針

1. インフラDX推進の基本スタンス

〈令和8年度 新標語〉

インフラDXを自分ごとに。ー チャレンジ精神で、やってみよう！ ー

背景・課題

- 災害激甚化／老朽化
- 担い手不足
- 業務量増大

インフラDXの考え方

- 単なるIT化ではない
- 業務・仕組みの見直し

効果創出の方向性

- 時間創出
- 価値・品質向上

創出された時間・余力の再配分による成果

【整備局職員】 働きがい向上・WLB・専門性強化

【建設業界等】 生産性・安全性向上・持続性確保

【国民】 行政サービスの質・信頼性向上

1. インフラDX推進の基本スタンス

(令和7年度取組方針)

令和7年度は、令和6年度の強化方針項目を継続し、インフラDXをさらに加速させる。

① i-Construction2.0、ICT施工StageⅡ等の推進

- 取組事例、試行効果を水平展開し、新たな施工現場の創出を目指す

② 小規模工事へのICT施工の普及強化

- ヒアリング結果を反映し、講習・セミナー・体験会内容のフォローアップを実施する
- 小規模工事における施工のオートメーション化を検討・試行する

③ BIM/CIM適用による好事例抽出と水平展開

- 活用事例集の充実化を図る

④ 異分野間の取組共有による創発・高度化

- 出張所DX異分野間意見交換（stage 2）を実施する
- 河川・道路によるデータプラットフォーム等のデータ連携に関する意見交換を実施する

⑤ 各事務所のDXの取り組み推進

- 組織内部のDX取組に対するモチベーションを高めるため、新たに表彰制度を創設する
- 関東DX・i-Con人材育成センターとの連携を強化する
- BIM/CIM3次元モデルの操作講習会を実施し、事務所を支援する

2. 令和7年度 取組成果

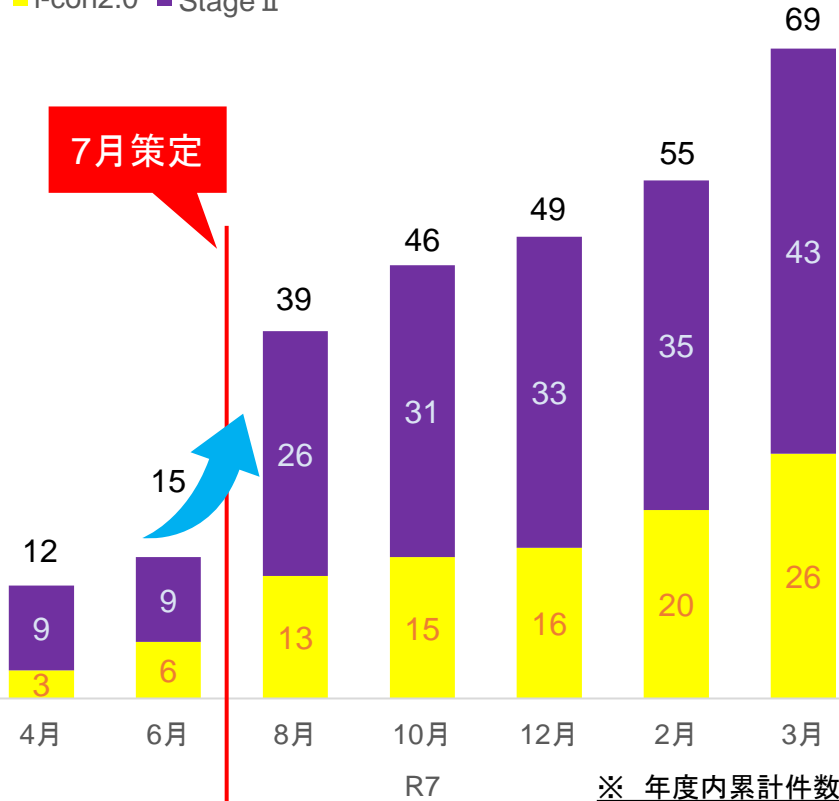
① i-Construction2.0、ICT施工Stage II等の推進

《取組事例、試行効果を水平展開》

- 令和7年7月1日「i-Construction2.0活用工事成績評定要領」を策定し、活用工事は成績評定で評価することを公表。
- 策定以降、i-Construction2.0及びICT施工Stage IIの取組に増加傾向が見られる。

i-Con2.0・ICT施工Stage II 月別実施件数(累計)

■ i-con2.0 ■ Stage II



2. 令和7年度 取組成果 《新たな施工現場の創出》

① i-Construction2.0、ICT施工Stage II 等の推進

自動施工・遠隔施工 26工事
ICT施工Stage II 43工事 R8.3. 31時点

i-Construction2.0 ～自動施工・遠隔施工～

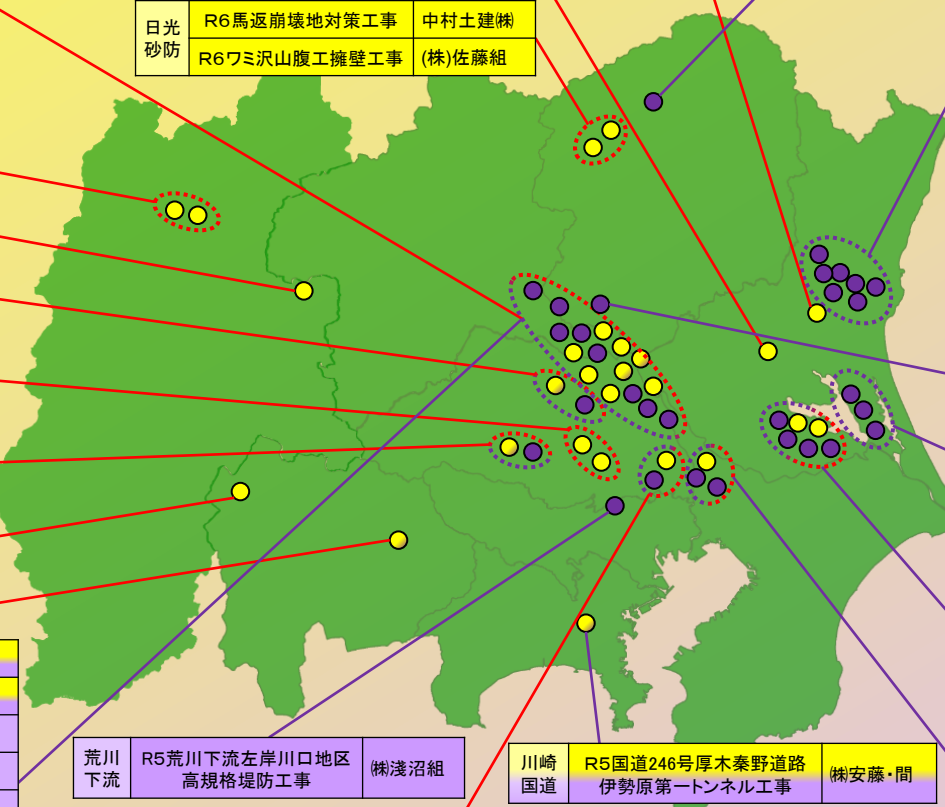
**遠隔施工を用いた
建設現場の効率化・安全化**



霞ヶ浦
導水 R5霞ヶ浦導水石岡トンネル
(第3工区)新設工事 (株)安藤・間

常陸 R4那珂川左岸小場地区
周囲堤築堤工事 清水建設(株)

日光
砂防 R6馬返崩壊地対策工事 中村土建(株)
R6ワミ沢山腹工擁壁工事 (株)佐藤組



鬼怒川ダム	R7川治ダム他土砂掘削工事	那須土木(株)
久慈川 緊急治水 対策工事 事務所	R5久慈川右岸頃藤北地区整備工事	東亜建設工業(株)
	R5久慈川右岸米崎地先樋管改築工事	樋口土木(株)
	R6久慈川土砂改良(その2)工事	松崎建設(株)
	R5久慈川左岸堅磐地区境樋管改築工事	(株)加藤建設
	R6久慈川左岸堅磐地先築堤工事	五洋建設(株)
	R6久慈川左岸小貫北地先樋管新設工事	(株)奥村組
	R5久慈川右岸高渡地区整備工事	(株)森本組
	R6久慈川右岸岩崎地先河道掘削工事	高橋建設工業(株)
	R6久慈川左岸小貫南地先排水樋管新設工事	東康建設工業(株)
	R5久慈川右岸舟生地先堤防整備工事	サコー建設(株)
R6久慈川右岸南田気地区整備工事	三井住友建設(株)	
R6久慈川左岸久野瀬地区整備工事	若築建設(株)	
R6久慈川右岸下野宮地区整備工事	(株)新井組	

渡良瀬川	R6旗川右岸奥戸町地先築堤工事	小川工業(株)
常総 国道	R5東関道清水地区改良工事	大日本土木(株)
	R5東関道清水石神地区改良工事	(株)森本組
	R5東関道築地地区改良工事	東急建設(株)

霞ヶ浦	R6・7土浦出張所管内右岸河川維持工事	天海建設(株)
	R7・8土浦出張所管内右岸河川維持工事	(株)伊藤建設
	R7甘田入第13地区基盤整備工事	水郷建設(株)
	R7甘田入第8地区基盤整備工事	高橋建設(株)
	R7甘田入第11地区基盤整備工事	昭和建設(株)
R7甘田入第15地区基盤整備工事	(株)加藤建設	

北首都 国道	R7国道4号東埼玉道路(専用部)柿木第2号橋下部 その2工事	(株)加藤建設
	R6国道4号東埼玉道路大川戸地区改良その1工事	金杉建設(株)
	R6国道4号東埼玉道路大川戸地区改良その2工事	金杉建設(株)

利根川 上流河川 事務所	R6渡良瀬川左岸鳥喰築堤工事	名倉建設(株)
	R6・R7大利根管内左岸河川維持工事	大協建設(株)
	R7古河管内下流部河川維持工事	潮田建設(株)
	R7・R8古河管内上流部河川維持工事	榑戸室組
	R6・R7川俣管内右岸河川維持工事	小川工業(株)
	R7目吹管内左岸河川維持工事	(株)高橋芝園土木

長野 国道	R6国道19号信州新町水内地区災害復旧工事	(株)岡谷組
	R6長野出張所管内舗装修繕工事	世紀東急工業(株)

利根砂防	R6大日向川砂防堰堤工事	(株)竹花組
------	--------------	--------

大宮 国道	R7(仮称)道の駅こうのす調整池その2工事	小川工業(株)
	R5新大宮上尾道路宮前地区橋梁基礎その2工事	東急建設(株)

荒川 調節池	R6荒川第二調節池地盤改良工事	(株)植木組
	R6荒川第二調節池地盤改良その1工事	(株)植木組

荒川 上流	R6都幾川右岸西本宿上築堤他工事	小川工業(株)
	R6荒川右岸出丸中郷地下河道掘削工事	田部井建設(株)

富士川 砂防	R6中島砂防堰堤右岸斜面对策工事	(株)芦沢組土木
-----------	------------------	----------

甲府	R4国道20号新笹子トンネル その1工事	大林・大本特定建設 工事共同企業体
----	-------------------------	----------------------

利根川 上流河川 事務所	R7大利根管内右岸河川維持工事	小川工業(株)
	R6渡良瀬川右岸伊賀袋築堤その2工事	河本工業(株)
	R6利根川左岸斗合田築堤その1工事	潮田建設(株)
	R6利根川(鬼怒川)左岸野崎築堤その1工事	潮田建設(株)
	R6渡良瀬川右岸伊賀袋築堤その1工事	潮田建設(株)
	R6渡良瀬川左岸鳥喰築堤他工事	河本工業(株)
	R6利根川左岸明和川俣築堤護岸工事	金杉建設(株)
	R6利根川左岸斗合田築堤その3工事	金杉建設(株)
	R7利根川左岸斗合田築堤工事	(株)高橋芝園土木
	R7稲戸井調節池土砂掘削その5工事	松浦建設(株)

荒川 下流	R5荒川下流左岸川口地区 高規格堤防工事	(株)浅沼組
----------	-------------------------	--------

川崎 国道	R5国道246号厚木秦野道路 伊勢原第一トンネル工事	(株)安藤・間
----------	-------------------------------	---------

江戸川	R7三郷・吉川河川維持工事	金杉建設(株)
	R6江戸川右岸八子新田地先上段盛土工事	金杉建設(株)

**運行管理システムを用いた
現場管理の効率化**



- ① 作業の最適化
- ② 工程の最適化
- ③ 予実管理
- ④ 安全等
- ⑤ 環境等

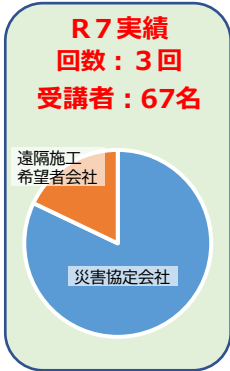
**ICT施工Stage II
～現場全体の効率化～5**

2. 令和7年度 取組成果

②小規模工事へのICT施工の普及強化

遠隔施工講習開催

i-Construction2.0策定に伴い、講習希望者が多い**遠隔施工講習を開催**。
災害協定会社の受講をメインとしていた「無人化施工講習」を「遠隔施工講習」と
改め、遠隔施工の受講を希望する会社の受け入れを拡大。



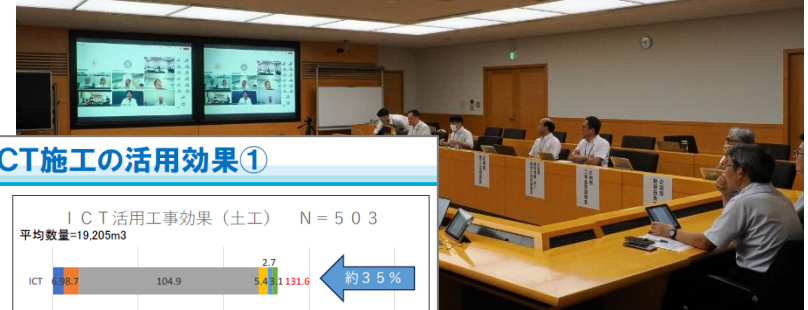
簡易遠隔操縦装置の取付実習



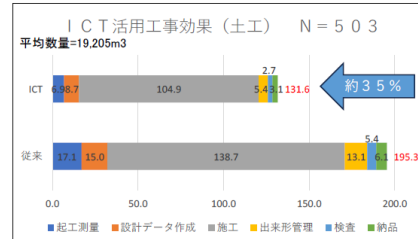
モニター目視による遠隔操作実習

ICT施工活用工事の効果分析と発信

関東DX・i-Construction推進協議会（R7.8.27）



ICT施工の活用効果①



地公体等のICT、インフラDXの取組について情報交換を実施

ICT施工経営者セミナー全都県開催

令和5年度（2県）から開催を初めた「ICT施工経営者セミナー」について、
令和6年度は、関東地方整備局管内全都県（9都県）で開催し、好評であった
ことから、**令和7年度においても、関東地方整備局管内全都県で開催**。

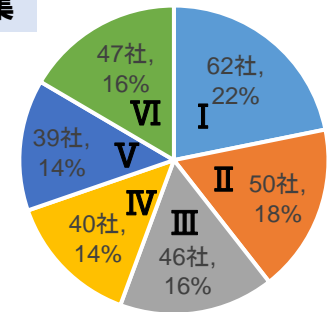


開催日	開催都県	参加人数		
		計	集合	Web
R7.10.1	茨城県	78	39	39
R7.10.14	栃木県	137	137	-
R7.10.15	長野県	52	31	21
R7.10.16	山梨県	50	27	23
R7.11.28	東京都	31	13	18
R7.12.8	埼玉県	34	20	14
R8.2.20	群馬県	65	29	36
R8.2.24	神奈川県	51	24	27
R8.2.26	千葉県	94	26	68
参加者	計	592	346	246
R6参加者		457	159	298

ICTアドバイザー追加募集

- ・新工種やICT施工Stage IIへの支援体制充実
- ・より多くの地域に密着したアドバイス活動によるICT施工普及促進強化

16社追加 全75社



支援区分別登録社数

支援区分	I 3D計測	II 3D設計	III ICT施工	IV 3D管理	V 総合マネ	VI 研修・講習
R6迄	49社	39社	38社	31社	30社	38社
追加	13社	11社	8社	9社	9社	9社
計	62社	50社	46社	40社	39社	47社

※1社につき複数の区分を支援

2. 令和7年度 取組成果

②小規模工事へのICT施工の普及強化

- i-Construction2.0を踏まえ、**小規模工事を対象とした施工のオートメーション化**について、現状把握と課題整理を実施。
- 現場状況に応じて作業内容を判断する自動化技術の状況調査。
- 自動化技術導入における**社会実装課題・施工レベル課題**を抽出。
- 小規模現場への自動化技術活用の適用条件・**求められる機能を把握**。

○具体例

1. 小規模工事で実運用可能な自動化技術（13技術・7機種）を整理した結果、単一作業中心で複合作業は今後の課題であることが明らかとなった。
2. 現時点でのオートメーション化技術は限定的 → 今後の技術開発が必要
 【社会実装課題】
 - ・ 導入コスト低減
 - ・ 法整備（技術活用時の安全管理など）
 - ・ 人材育成（知識保有者少）
 【施工レベル課題（要望されている技術）】
 - ・ 複合作業を対象とした技術
 - ・ 現場条件に合わせた柔軟な設定変更が可能な技術
3. 自動化技術へ求められる機能を把握した。

技術適用場面	求められる機能
バックホウ 掘削、積込み	【掘削】 ・ 掘削場所、周辺状況に合わせて車体の位置を判断し、作業最適位置へ車体を移動する機能。 ・ 掘削面の高さが設計値内になるように掘削する機能。 ・ 作業の空き時間に、掘削範囲の地山をほぐし土にする機能。 【積込】 ・ ダンプトラックへ積込み時に過積載にならないようにする機能。
ダンプトラック 積込、運搬	・ 規制帯内の指定された位置へ、指定されたタイミングで入る機能。 ・ バックホウの作業進捗に応じた前後進に合わせて、積込み可能位置へ自動追従する機能。



自動化技術へ求められる機能（部分）

水道管敷設工事における掘削作業

2. 令和7年度 取組成果

③ BIM/CIM適用による好事例抽出と水平展開

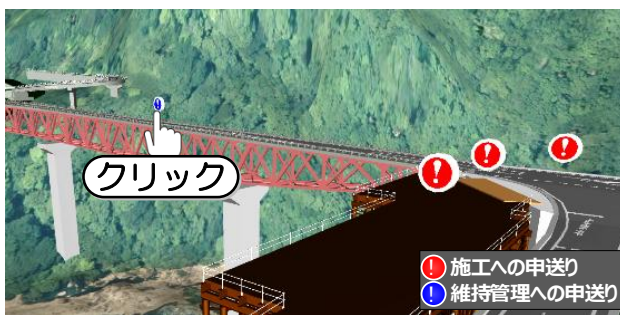
- 令和7年3月より **関東地整版「BIM/CIM活用事例集」を公開開始**
- 関東DXインフラ大賞※や各事務所で実施する取り組みを **新たな事例として取り込み、内容の充実**を図った。

※関東DXインフラ大賞：関東地方整備局所管の工事及び業務に関し、「生産性向上」及び「働き方改革」等につながる優れた取組を選定し、これを表彰することにより、インフラ分野のDX推進に資することを目的とした取組

《新たに取り込むBIM/CIM活用事例の一例》

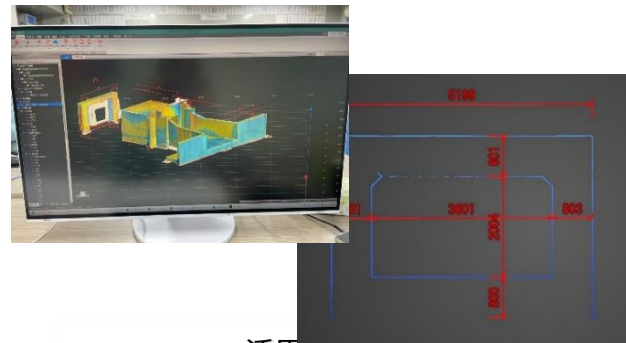
R6関東DXインフラ大賞より

カテゴリ	事務所名	取組内容
活用段階① 【調査計画】	宇都宮国道事務所	【R4国道121号日光川治防災詳細設計業務】 国道121号日光川治防災の橋梁詳細設計において、3次元モデルを活用 ・BIM/CIM統合モデルに送り事項の位置・内容を反映した送りモデルを構築 ・360°カメラとAR技術を活用した現場写真からストリートビューマップを作成し、現地状況の確認漏れ防止と関係者間で効果的に共有
活用段階② 【出来高管理】	利根川下流河川事務所	【R5利根川左岸荒波樋管新設工事】 構造物の任意箇所をPC上で指定することで部材寸法が表示され、現場での確認や出来形管理図表への入力が容易となり、従来の検尺による計測方法と比べて安全性・生産性が向上。
活用段階③ 【監督検査】	荒川調節池工事事務所	【R4荒川第二調節池下大久保下流工区囲繞堤工事】 3次元データを用いた監督検査の効率化。資料作成時間及び検査時間の短縮。



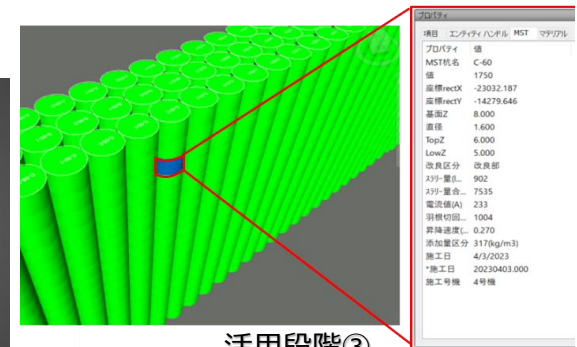
活用段階①

3次元モデルを活用した送り事項



活用段階②

3次元データを活用した出来形管理



活用段階③

3次元データを活用した検査

2. 令和7年度 取組成果

③ BIM/CIM適用による好事例抽出と水平展開

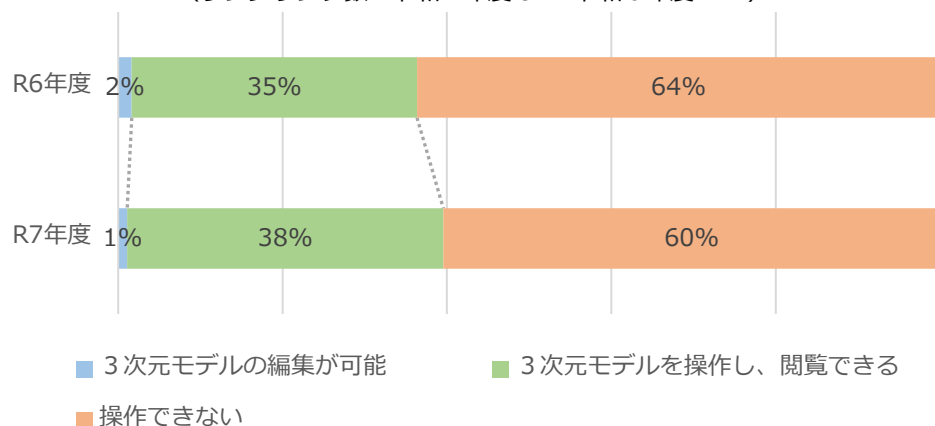
● 関東地方整備局が発注する工事・業務を対象に、BIM/CIMモデルの操作スキルに関するアンケート調査を実施。

- ① 発注者 **3次元モデルを閲覧可能な技術者が約4割にとどまっている。**
- ② 受注者 **3次元モデルを編集できる技術者は微増している一方で、自らモデルを閲覧可能な技術者は約3割にとどまっている。**

【関東地方整備局発注工事・業務における技術者のBIM/CIMスキル】

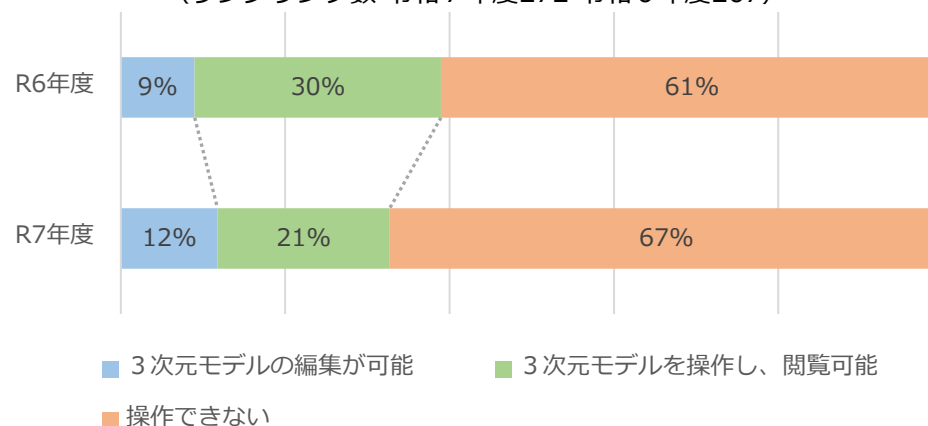
①発注者

(サンプリング数 令和7年度 91 令和6年度 121)



②受注者

(サンプリング数 令和7年度272 令和6年度267)



アンケート抽出条件：詳細設計時に3次元モデルを作成した建設コンサルタント業務、または工事施工中にBIM/CIM適用工事を対象としている。

2. 令和7年度 取組成果

④ 異分野間の取組共有による創発・高度化

- DX出張所異分野横断交流（stage 2）により、河川・道路のDX実務ノウハウが共有され、**業務効率化と行政サービス向上の方向性が明確**になった。
- 全国13の**DX出張所の常設コミュニティが整備**され、知識共有が円滑化した。
- **職場機能差・異動による知見継承の課題**も浮き彫りとなり、今後の基盤形成に資する成果となった。

※stage1ではDX出張所としての環境整備

河川



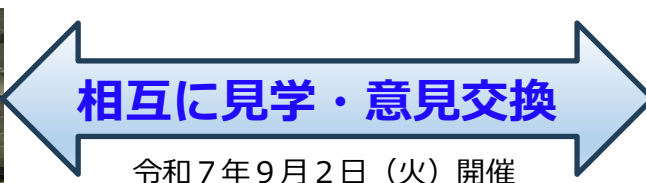
道路

DX出張所の異分野横断交流(stage 2)を開催!



AI電話やチャットポット、鍵ロッカーなどを紹介

東京国道・品川(出)の職員に取組を説明



相互に見学・意見交換

令和7年9月2日(火)開催



24時間鍵の受け渡し可能なロッカーを設置



フリーアドレスにより執務環境をDX化



業務環境改善やGISプラットフォームなどを紹介

荒川下流・小名木川(出)職員に取組を説明

荒川下流河川事務所 小名木川出張所での説明

東京国道事務所 品川出張所での説明

2. 令和7年度 取組成果

⑤各事務所のDXの取り組み推進

1) i-Constructionモデル事務所による取り組みの先導継続

<甲府河川国道事務所>

- 岩石落下による工事事故等の危険が伴う**山岳トンネル工事**において、安全性向上・省人化・省力化を目的とし、遠隔・自動化施工を積極的に活用した**ICT・BIM/CIM活用工事を推進**。

<荒川調節池工事事務所>

- 事業への理解促進などを目的として、3次元モデルを活用して公開、好評だった大人気ゲーム「**マイクラフト**」のワールドデータを拡張し、**第二弾として公開**。

2) i-Constructionサポート事務所による地域の取り組み

<日光砂防事務所>

- **インフラ分野のDX普及を目的として**、建設業協会と連携・協力して、地元建設企業等を対象とした**講習会を開催**。

○甲府河川国道事務所 取組事例



安全かつ熟練度に依存しない施工環境を整備

○荒川調節池工事事務所 取組事例



○日光砂防事務所 取組事例



令和7年8月6日開催
日光砂防DX推進講習会（WEB配信）の様子
約200名が参加
地元建設企業向け講習会を事務所主催により
年2回開催してi-Con推進を強力にサポート

2. 令和7年度 取組成果

⑤各事務所のDXの取り組み推進

3) 生成AIに関する活用推進

- 令和7年10月より、申請不要でMicrosoft 365 Copilot(生成AI)を活用できる環境となったことを受け、DX推進の一環として**イントラネット上に生成AI特設ページを開設。**
- **職員が必要な情報へ迅速にアクセス可能な環境を整備**
- **基礎知識・利用ルール・活用事例等の情報を一元化し、これにより、地整内における生成AI関連情報の集約及び提供体制を整備した。**

生成AIに関する特設ページを開設

生成AIの利活用

このページはCopilot Chatを利用して作成しました

Copilot Chatなどの生成AI活用好事例を一覧形式で掲載しています。
これを見れば、関東地整の職員が業務で生成AIをどのように利用しているか一目で分かります。
気になる事例をクリックし、業務効率化に役立てましょう！

生成AIマスターへの道

チュートリアル：生成AIとは（AIとの違い）

従来のAIは人間があらかじめ用意したデータを基に分析・予測をする技術であるため、「既存の選択肢から正解を識別する」人工知能です。
対して、生成AIは、膨大なデータからパターンや関係性を学習し、新しいコンテンツを自動生成する技術です。そのため、生成AIは創造的で高度な業務利用に向いています。

3. 令和8年度 取組方針

令和8年度は、**i-Con2.0、BIM/CIM、生成AI活用等の取組を着実に定着させ、現場での効果発現を意識したインフラDXを推進する。**

① i-Construction2.0（施工のオートメーション化）の推進

- 導入インセンティブ施策の拡充による推進の強化
- 施工事例の水平展開を通じて取組の定着を図る

② 小規模工事への省人化施工普及強化

- i-Construction2.0推進のため省人化建設機械による施工の普及を図る
- ニーズや技術要件、市場規模の明確化を進め、中小企業の参画を促す環境整備に取り組む

③ BIM/CIM活用の普及強化

- 3次元データの二次利用を意識したBIM/CIM活用を推進し、各種試行や事例共有を通じて利用頻度を高め、利用拡大・普及強化を図る
- すべての技術者の基礎的なデジタルスキル習得を進めるとともに、役職者・中堅職員による中核人材の育成を推進する

④ 各部・事務所におけるDXの取り組み推進【令和7年度方針④⑤を統合】

- i-Constructionモデル事務所やサポート事務所の取組成果を共有し、各部・事務所におけるDXの取組定着を支援する
- DX出張所の水平展開に向けて、拡大に向けた検討に着手する

⑤ 生成AIを活用した業務省力化（CXと連携）【新規】

- 生成AIを活用し、業務負担軽減と学習支援を推進するとともに、好事例の水平展開を図る

《参考》取組方針の比較表

令和7年度取組方針	令和8年度取組方針（案）
<p>（キャッチコピー）</p> <p>整備局が自治体や業界をリードする気概を持ち、楽しく、前向きに、全員で「アジャイル精神で、やってみよう！」</p>	<p>（キャッチコピー）</p> <p>インフラDXを自分ごとに。 — チャレンジ精神で、やってみよう！ —</p>
<p>（取組方針）</p> <p>令和7年度は、令和6年度の強化方針項目を継続し、関東インフラDXをさらに加速させる。</p>	<p>（取組方針）</p> <p>令和8年度は、i-Con2.0、BIM/CIM、生成AI活用等の取組を着実に定着させ、現場での効果発現を意識したインフラDXを推進する。</p>
<p>① i-Construction2.0、ICT施工StageⅡ等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 取組事例、試行効果を水平展開し、新たな施工現場の創出を目指す。 <p>② 小規模工事へのICT施工の普及強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ヒアリング結果を反映し、講習・セミナー・体験会内容のフォローアップを実施する。 ● 小規模工事における施工のオートメーション化を検討・試行する。 <p>③ BIM/CIM適用による好事例抽出と水平展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ● BIM/CIM3次元モデルの操作講習会を実施する。 ● 活用事例集の充実化を図る。 <p>④ 異分野間の取組共有による創発・高度化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 出張所DX異分野間意見交換（stage 2）を実施する。 ● 河川・道路によるデータプラットフォーム等のデータ連携に関する意見交換を実施する。 <p>⑤ 各事務所のDXの取り組み推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 組織内部のDX取組に対するモチベーションを高めるため、新たに表彰制度を創設する。 ● 関東DX・i-Con人材育成センターとの連携を強化する。 	<p>① i-Construction2.0（施工のオートメーション化）の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 導入インセンティブ施策の拡充による推進の強化。 ● 施工事例の水平展開を通じて取組の定着を図る。 <p>② 小規模工事への省人化施工普及強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● i-Construction2.0推進のため省人化建設機械による施工の普及を図る ● ニーズや技術要件、市場規模の明確化を進め、中小企業の参画を促す環境整備に取り組む。 <p>③ BIM/CIM活用の普及強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 3次元データの二次利用を意識したBIM/CIM活用を推進し、各種試行や事例共有を通じて利用頻度を高め、利用拡大・普及強化を図る。 ● すべての技術者の基礎的なデジタルスキル習得を進めるとともに、役職者・中堅職員による中核人材の育成を推進する。 <p>④ 各部・事務所におけるDXの取り組み推進【④⑤を統合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● i-Constructionモデル事務所やサポート事務所の取組成果を共有し、各部・事務所におけるDXの取組定着を支援する。 ● DX出張所の水平展開に向けて、拡大に向けた検討に着手する。 <p>⑤ 生成AIを活用した業務省力化（CXと連携）【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生成AIを活用し、業務負担軽減と学習支援を推進するとともに、好事例の水平展開を図る。

3. 令和8年度 取組方針

① i-Construction2.0(施工のオートメーション化)の推進

- 導入インセンティブ施策の拡充による推進の強化
- 施工事例の水平展開を通じて取組の定着を図る

(取り組み内容)

- 総合評価の企業の技術力（自由設定項目）へICT施工Stage IIの実施を追加、工事成績評定時の評価へ、令和7年度までの『遠隔施工・自動施工』、『ICT施工Stage II』に加え、令和8年度から『省人化建設機械（チルトロータ）』を追加。
- 施工のオートメーション化で得られた効果の事例を、関東地整内に展開することにより受発注者双方への導入を促進。

総合評価でICT施工Stage IIの実施を評価（新規）

分類	評価項目	評価内容	評価基準
自由設定項目	ICT施工Stage IIの実施	当該工事においてICT施工Stage IIにかかる実施計画書を作成し、実施する場合に評価	実施する : 1点 実施しない : 0点

	2025年度(R7年度)	2026年度(R8年度)
自動施工 遠隔施工	工事成績評価措置	工事成績評価措置(継続)
施工データの活用 (ICT施工Stage II)	工事成績評価措置	工事成績評価措置(継続) 総合評価(8月~)
新たな施工技術 (チルトロータ)		工事成績評価措置(追加)

ICT施工Stage IIでの効果事例

- 他発注機関を含め、複数業者による土砂運搬作業が行われる中、建設機械・ダンプトラックの配置計画シミュレーションを実施し、それに基づき、稼動状況の把握を行ったことで施工効率が格段に上昇した。
- 把握した情報を元に、土砂等運搬車両に最適な運搬台数を算出し、効率的に運搬作業を実施することができた。
- 事前の計画もリアルタイムの運行状況も可視化！
- システム構築前と比較し、日当たり運搬土量が20%~30%向上した。

日当たり運搬土量が20~30%向上

◆ 工事名: R6渡良瀬川右岸伊賀袋築堤その1工事
 ◆ 発注者: 関東地方整備局 利根川上流河川事務所
 ◆ 受注者: 潮田建設株式会社
 ◆ 工事価格: 220,528,000円(税込)
 ◆ 主な工事内容: 盛土工(ICT) 約32,100m³
 土砂改良工 約17,300m³
 舗装工(ICT) 約1,340m²

AIによる運行シミュレーションに何度もトライしました
 制限速度も危険箇所も全てアプリの中に！
 1日を通じて運搬車両の動きが可視化 ロス・ムダの無い稼動を実現し、施工効率アップ！
 アプリケーションから送られる警告音声により、複数の制限速度区間を走行したが、速度超過は1台も無し！
 安全教育訓練でも分かりやすいとの意見！

3. 令和8年度 取組方針

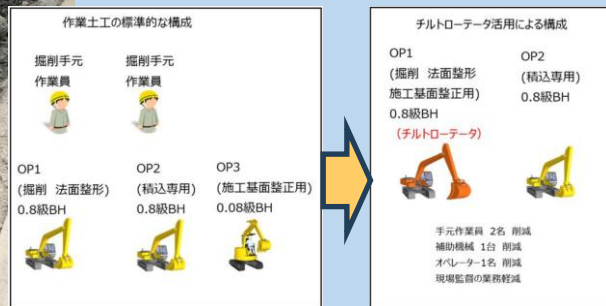
② 小規模工事への省人化施工普及強化

- i-Construction2.0推進のため **省人化建設機械による施工の普及**を図る
- ニーズや技術要件、市場規模の明確化を進め、 **中小企業の参画を促す環境整備に取り組む**

(取組み内容)

- ICT建設機械等に認定された省人化建設機械（チルトローテータ）利用工事では、**工事成績評価時に評価するとともに、チルトローテータ講習を開催**する。
- 講師と参加者の自由な意見交換を目的とした**対話型形式**の経営者セミナーを開催する。
小規模工事ICT施工活用の手引きの拡充。

省人化技術（チルトローテータ）の普及



チルトローテータ付油圧ショベルの普及促進を目的とし、令和8年度は新たに**チルトローテータ講習**を開催

ICT施工経営者セミナー全都県開催



講習形式のセミナー



対話型形式の試行実施
(神奈川県)

令和7年度に好評であった**対話型形式**を関東地整管内全都県で開催

- 「遠隔施工講習開催」「ICT施工活用工事の効果分析と発信」はR7に引き続き実施。

3. 令和8年度 取組方針

③ BIM/CIM活用の普及強化

- **3次元データの二次利用を意識したBIM/CIM活用**を推進し、各種試行や事例共有を通じて**利用頻度を高め、利用拡大・普及強化を図る。**
- すべての技術者の**基礎的なデジタルスキル習得**を進めるとともに、**役職者・中堅職員による中核人材の育成**を推進する。

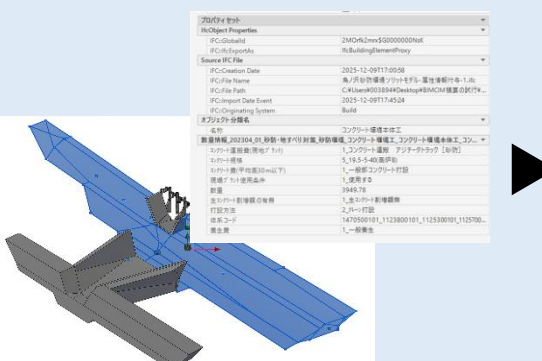
(取り組み内容)

- 発注段階からの活用促進に加え、事業段階を通じた**3次元データ活用の試行・定着**を図るとともに、**事例共有を通じた職員の理解促進および普及**を推進。
- 『基本』と『応用』操作に分かれ、受講者のレベルに合わせて**3次元ソフトウェアを用いた実技形式の講習**を新設
- **中核人材育成**に向けた、『実践トレーニング研修』の強化など

二次利用の普及推進

(例：BIM/CIM積算試行)

砂防堰堤3次元モデルに積算用属性情報
を付与し、IFC形式に変換



IFC数量データ (XML) に変換し、「設計数量管理機能」に読み込む

品名	数量	単価	金額
コンクリート標準部材	1	100.00	100.00
鉄筋	1	100.00	100.00
砂防堰堤	1	100.00	100.00
...

利根川水系砂防事務所 (R6 烏川・神流川流域砂防施設設計業務)

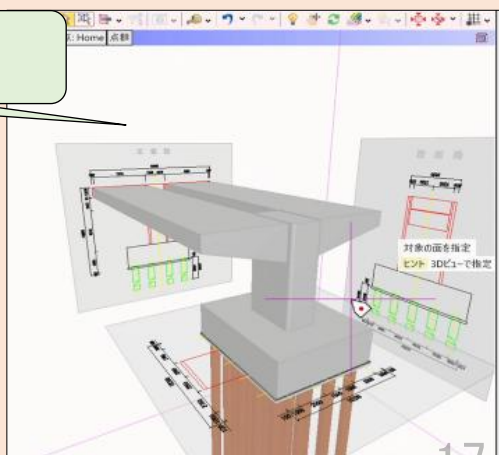
研修の強化

(例：CIM操作講習会)

【講習会の一例】
2D図面から3次元モデルを作成



R8.2に実施した講習の様子



3. 令和8年度 取組方針

④ 各部・事務所におけるDXの取り組み推進

- i-Constructionモデル事務所やサポート事務所の取組成果を共有し、各部・事務所におけるDXの取組定着を支援する。
- DX出張所の水平展開に向けて、拡大に向けた検討に着手する。

(取り組み内容)

- ・ 関東インフラDX Direct発行を継続する。
- ・ 組織内部のDX取組に対する表彰制度を継続する。
- ・ DX出張所の水平展開を進めるため、各分野の環境に適した出張所のDX化に向けた標準仕様・要件の整理を進める。

① 品川出張所（道路） 執務室・会議室の様子



② 小名木川出張所（河川） DX活用の例

<河川巡視>



ウェアラブルカメラ



電動バイク点検員からリアルタイムに映像音声を送信

<DX出張所>



- ・ 執務室や会議室等にWi-Fiを整備するとともに、会議室にはモニターを設置し、ペーパーレス化を実現。
- ・ 快適な執務環境と新しい働き方を提供。
- ・ 巡視員との意思疎通が容易になり迅速・的確な指示が可能
- ・ 重大案件の共有や蓄積した記録（映像・位置・時間）の活用により、現地の問題検証や原因究明が効率化。

3. 令和8年度 取組方針

⑤ 生成AIを活用した業務省力化①（CXと連携）【新規】

- 生成AIを活用し、**業務負担軽減と学習支援を推進**するとともに、好事例の水平展開を図る。

（取り組み内容）

1) 業務負担軽減を目的とした生成AI活用テーマの創出・実践

- 生成AIの全職員向け利用環境の整備により、地方整備局・事務所まで活用が広がっており、Microsoft 365 Copilot（生成AI）利用にとどまらず、職員が主体となった業務負担軽減や学習支援に資する**業務支援チャットボットのラインナップを拡充**

- ①発注・契約業務特化 ②内部業務ナレッジ検索 ③新任・異動職員向け



2) 生成AI特設ページの作成—職員への利用促進

- 生成AIの活用により職員の業務改善に寄与した事例を収集し、「**生成AI活用好事例集**」として**整理・反映**。
- Copilotのプロンプト入力において、意図した回答が得られにくいという課題を踏まえ、想定する回答に到達するまでの考え方や工夫を**ガイド形式で整理した特設ページを作成**。

職員向けイントラネット インフラDX

 DX Direct DXに関する取組一覧	 BIM/CIM 説明会資料、BIM/CIMソフト関連	 ICT施工 事務連絡、ICT関連基準・要領、ICT関連会議
 生成AI特設ページ 利用ルール・生成AI活用事例集	 業務便利ツール 業務効率化テクニック一覧	 ナレッジ動画 学習動画アーカイブ
 イベントカレンダー DX関連イベント・講習等	 DX推進本部会議 本部会議・幹事会資料	 関東インフラDX大賞 概要・選考・受賞事例

※本イラスト「しどう君」は、Microsoft 365 Copilot(生成AI)を用いて作成したバーチャル技術指導係員を表現したものです。